

株式会社おんが自動車学校 (福岡県遠賀郡遠賀町)

交通の安全を支えるのは 「相手本位」の意識

株式会社おんが自動車学校では、普通自動車免許の取得を支援するだけでなく、大型車や特殊車両などの免許取得支援、プロドライバーへの講習なども行っている。

一方で、地元の高등학교等で、若年者への交通安全教育とマナー教育も手掛ける。

今、そしてこれからの運転者に求められる「相手本位」の意識を、社員にも地元の高校生にも身に付けてほしいと、秘書検定やビジネス実務マナー検定の受験を推進する同社の取り組みについて伺った。

プロドライバー相手の 指導で「求められる」 「相手本位」の意識

福岡市と北九州市に挟まれた遠賀町にあるおんが自動車学校は、40年前に普通自動車免許取得のための教習所として創業した。以来、地域の人々の仕事や生活に欠かせない自動車免許取得を支えてきた。20年前に、創業者であった父から会社を引き継いだ力武浩一代表取締役社長は、同社の事業のテーマを「生涯交通教育」だと説明する。

「ちょうどその頃、日本国内では少子高齢化が顕著になり始め、われわれとしても普通自動車免許取得の講習だけでは先々、事業が右肩下がりになることは容易に予想できました。何か新しい取り組みが必要だと考え、取り入れたものの一つが、大型車や二輪車、フォークリフトなど多種多様な免許取得の講習です。普通自動車免許を取得した後も必要に応じて利用してもらえるようにと考えました。さらに、15年ほど前からは、旅客・運輸業界の課題でもあった「ドライバーの再教育」を手掛け始めました」(力武社長)。

ドライバーの再教育とは、技術の更新と併せて、事業用車両の事故減少やエコドライブの観点から運転についての意識を高めてもらうもの。公益社団法人全日本トラック協会および各県トラック協会の指定を受け、講習や研修を行っている。現在は、年間約4000人のドライバーや管理者が、同社で研修を受けているという。

ドライバーの再教育では、受講者は皆、プロのドライバーだ。プロドライバーは運転に関しては自負を持っており、インストラクターより



さまざまな車種の免許が取得できる
おんが自動車学校の教習所



「いかに“相手本位”の意識を持てるか、その指導は交通教育には不可欠」と話す力武浩一代表取締役社長



講習インストラクターの安武和人氏。秘書検定・ビジネス実務マナー検定2級に合格。高等学校でのマナー教育や資格講座（秘書検定、ビジネス実務マナー検定、ファイナンシャルプランナーなど）の講師も務める

も運転歴や技術が高い人も多い。そのような人を相手に、「安全な運転にはマナー意識が大切だ」ということをどう説明し、納得してもらうか。そもそも、話を聞いてもらうにはどうしたらよいか。そのために、インストラクター自身が相手の視点に立った接し方や話し方を学び、実践することが不可欠になってきたのだ。

「昨今、社会でも大きな問題となっている飲酒運転やあおり運転は、その根本に自分本位な考え方があります。そう考えると、“相手本位”を基本とするビジネスマナーの考え方は、交通教育の観点からも非常に重要だといえます。安全のためには、周囲を見渡し、相手本位で考えな

ければなりません。この意識はプロのドライバーにとっても必要不可欠。インストラクター自身がビジネスマナーを学んで理解し、それを体現しながら教えることが大切だと考えています」（力武社長）。

相手を尊重した話し方をする、視線を合わせて説明するといった基本的な態度や振る舞いをインストラクター一人一人が心掛けることで、プロドライバーからも信頼を得ることができようになってきた。

同社の関連団体である一般社団法人交通安全教育事業協会（DAJ）での指導者講習でも、昨年からはビジネス実務マナー検定の内容を取り入れている。同協会には全国にある自動車学校のうち20校が加盟しており、講習を受けたインストラクターは、各自動車学校で主にプロドライバーに対する運転およびビジネスマナーの再教育に携わる。それぞれの現場で、ビジネスマナーを踏まえた講習が的確に行われることを期待しているそうだ。

高校生にも 交通教育と併せて マナー教育を行う

さらに、地域の人々に選んでもらえる教習所となるよう、同社では新たな形での地域貢献も模索してきた。その一つが近隣にある高等学校で、15年ほど前から行っている交通教育だ。学校設定科目「TSE（トラフィックセーフティ



高校生にマナー教育を行う安武氏。「安全」を理解してもらうために、「相手のためを思う」意識は欠かせない。学んだマナー意識は就職活動にも役立っている

エデュケーション・総合交通安全教育・自動車教育講座）で、自動車科の生徒は必修、それ以外の学科の生徒は選択で、毎年合わせて70〜90人の生徒が受講する。内容は、前期は物流に携わる人に求められる「運行管理者」資格に関する知識や技能の学習に加え、社会人としてのマナーについて、後期は自動車の構造に関する知識や実技について指導する。

「ここでは、交通安全のための知識と技術、運転者として心得ておくべきマナーなどと併せて、ビジネスマナーを指導しています」と話すのは、講師として教壇に立つ安武和人氏だ。

「もともとは、先生から運転免許取得講習と併せて、就職に役立つことを教えてほしいという要望があつて始まりました。ビジネスマナーは、実際に免許を取得し運転者となる前に、社会人として『相手』を大事に考える意識を身に付けるために有効だと思います。それが運転者となってからの交通マナーの向上にもつなが

ります」(安武氏)。

生徒たちは、学習の集大成としてビジネス実務マナー検定を受験。意識付けの成果か、ビジネスマナーを学んだ生徒は就職の内定を得るのも早いようだ。

他にも、他の高等学校向けに夏休みを利用した「免許取得+ビジネスマナー」の講座や、一般の免許取得者向けのプラスアルファ講座として、秘書検定やビジネス実務マナー検定の対策講座、ファイナンシャルプランナーの資格取得講座も開講。いずれも安武氏が指導している。

運転免許は、所定の教習を修めればどの教習所でも取得することができる。だからこそ、「『おんが自動車学校で取ろう』と選んでもらえる。縁をつくりたい」と、安武氏。高等学校や夏期講習でマナーを教えた生徒が、就職面接の方法や「秘書検定準1級を受けたい」と相談に来ることもある。声を掛けてもらえらうれしいもの。できるだけ力になりたい。そう願い、常に情報を収集し、提供できるよう準備してい

ると安武氏は笑顔を見せる。

「生涯交通教育」を中心に 地域社会に貢献する

事務員の尾崎諒子さんは、安武氏に続く講習インストラクターになるため目下勉強中だ。尾崎さんは4年ほど前に秘書検定3級・2級に合格。秘書検定で学んだ話し方や敬語などは日頃の業務でも役に立っており、検定で学んだ知識と、事務員として教習生や受講者、社内の指導員との架け橋を務めながら磨いたスキルで指導していきたいと話す。

コミュニケーションのスキルは事務員としても必須で、普通自動車免許取得の受付でも「きちんと面談をして、希望を詳細に聞かなければなりません」と尾崎さん。例えば、就職が決まって、会社から求められる免許取得のためにやってくる生徒・学生の場合、両親や身近な大人から免許取得のアドバイスを聞いて来るといだが、実は近年は法改正が頻繁に行われ、取得した免許の区分によって運転できる車種は以前とは大きく変わっている。

「面談時のヒアリングがうまくいかないと、後でクレームになることも。苦労して取得した免許では必要な車が運転できない、ということが起きてしまうかもしれないからです。そのため『どのようなお仕事をされる予定ですか』『トラックを運転する予定がありますか』など具体的な、目的や就職先の業界について何うよう



コミュニティー事業部長でインストラクターの蔵森真一さんは、昨年ビジネス実務マナー検定2級に合格。「プロドライバーの方に対して接遇やマナーについての講習を行う中で、自身のスキルアップを目的に検定を受験。学んだ対人スキルは社内でのコミュニケーションにも生かしています」

にしています」(尾崎さん)。

普通免許の教習に来る人だけでなく、企業研修などで1日、2日でもおんが自動車学校で学んだ人に、また次の機会に思い出してもらえたらありがたい、と力武社長は言う。今後の目標は、「自動車学校」の枠を超えて、地域の生涯教育の場を作っていくことだ。

「運転免許やビジネス実務マナー検定、秘書検定の講座だけでなく、遠賀町の皆さんと、長い縁を結べるような展開を考えています。小さいお子さんやその親御さん、高齢者の方まで、幅広い年代の方に向き合っていきたい。そのために、さらに社内のインストラクターの育成を図り、皆で意識を共有していきたいと考えています」(力武社長)。



事務スタッフの尾崎諒子さんは秘書検定2級に合格。安武氏の下で講習インストラクターになるべく勉強中



プロドライバー講習の様子。経験豊富なベテランドライバーにもしっかり話を聞いて取り組んでもらうためには、接し方、話し方にも工夫が求められる(指導は蔵森氏)